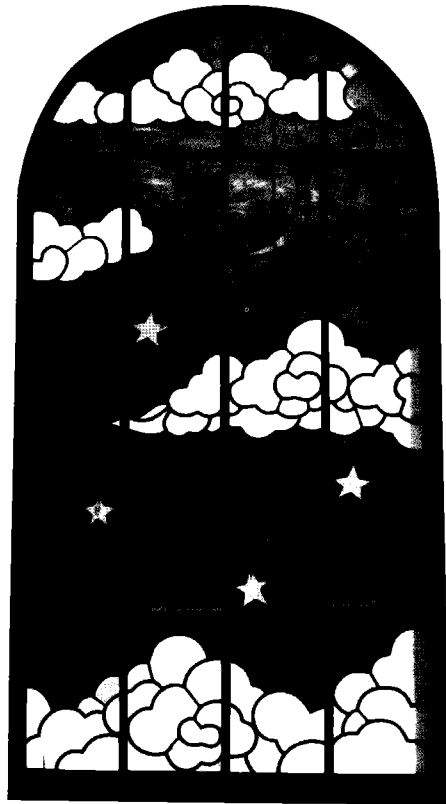


べっふの文化財

No. 38

平成19年3月

別府市中央公民館の復元に向けて



別府市教育委員会
別府市文化財調査員

目 次

1. 別府公民館概要	1
2. 中央公民館の耐震強度調査	4
3. 中央公民館復元イメージ・エレベーション	5
4. 公会堂の電灯設計図	6

1. 別府公民館概要

全国どこもかしこも都市化が進み、価値ある古い建物が姿を消しつつある中で、保存への努力も続いている。別府市内では、県教委と別府市教委が[近代化遺産]と位置付けた由緒ある建物の一つに別府市中央公民館がある。

「京都別府に公会堂なきは一大欠点なり。」初代市長神澤又市郎の発案で公会堂の建設が始まった。

(別府市誌より)

こうしてこの公民館は1928（昭和3）年、公会堂として竣工。鉄筋コンクリート、一部鉄骨造り。地上2階建て、地下1階。近代ドイツ復興式に和風を加味したこの建物は、近代ヨーロッパ建築に詳しかった吉田鉄郎氏の設計に寄るもので、別府市技師池田三比古氏が製図と現場を担当し、総工費は当時の金額で43万円だった。

当初は正面に石造りの大階段があり、入った所が1階（現在の2階）で大ホールと休憩室、2階（現在の3階）には貴賓室と食堂、地階（現在の1階）には大食堂、浴室、ビリヤードがあったから、当時はきつと「別府の名所」として威容を誇り、たくさんの見物客が訪れていたことだろう。戦前、戦中は演説会が多かったようだが記録は残っていない。

1949（昭和24）年からは公民館に転用され、各種の学習活動や会議、講演会、大会、発表会、文化活動、研修講座の開催など多面にわたって利用されている。

1968（昭和43）年には利用者の便を考慮して正面階段を撤去したが、これにより文化財的価値が損なわれることになった。平成6年11月25日別府市の有形文化財に指定され、復元に向けての協議、検討が行われている。

(1) 建設当時の外観について

現在は撤去されているが、竣工時は石造で堂々とした正面階段が備わり公民館（当時は別府市公会堂）全体に風格と威厳を保っていた最も重要な部分である階段を数段登ると、途中で踊り場があり両脇に大きな、此れまた石造の壺のオブジェとライオンの頭を模した吐水口を有する石造水盤が左右対に設けられている。おそらく、当時はエアコン等冷房装置が十分に発達していなかったためこの水盤は、夏季使用時の休憩時間に涼を取る装置だったのではと考えられる。これと同じ目的と思われる装置が屋上にも備わっていた様で、現在も残っていれば日本近代建築屋上庭園史上でも非常に古い珍しい庭園と成っていたと思われる。但し、学問上検証をしていない為、今後、検証の必要が有る。

階段をさらに登ると、大きなカンテラ風ランプの照明器具が付いた正面玄関入り口に着き、鑄鉄飾りの付いた鉄製ガラス組み込み扉を開き建物内部へと入る。

もう少し、外部概要を説明したい。あまり気が付かないが、側面より当時の地階（現在の1階）の出入り口庇に、石造製球状飾りがチョココンと乗っており、装飾華美に成らないような抑えられたデザインが美しい。外壁タイルは、当時一枚一枚手作りの黄土色タテ引つ掻き模様入りタイル（スクラッチタイル）を建物全体に張り、脚元腰壁石と最上部に敷き並べており、此また曲線が美しい、1個の大きさが高さ≒30cm、厚さ≒60cm、長さ≒90cm飾り石のグレー色と引つ掻き模様小さな影を作り、自身の色より少し色調を落とした色に見える黄土色タイル、このコントラスト、当時の威風堂々とした別府市公会堂が目浮かぶ。

外壁だけでなく、屋根の軒樋も、外壁最上部の飾り石と同調したこだわりのデザインで美しい。建物全体が堂々として威厳の有る姿なのに、あまり威圧感が無いのは、いたる所に円形や曲線を使用している為では無いかと思われ、この建物のすばらしさが感じ取れる。

(2) 建設当時の室内について

正面玄関を上り詰め、観音開きの重厚な玄関扉を開き建物内部に入ると、天井の高い玄関ホールでモザイクタイル張りの床と石造の階段が数段有り、外部の階段の両脇に有った壺と同型で小ぶりの対の壺が設けられている。壁を見ると手作りで15cm角程度の光沢のある美しいタイル張りの壁で、今の現在の壁の下に残っている。この階段を登り、玄関扉と同様な造りの観音開きの扉を開けると広間風廊下に出る。この正面にメインホールの出入り口が3ヶ所有り、両脇には黒御影石製のアーチ枠で囲まれた天使造2体の噴水が設けられている。おそらく、此の噴水も夏季使用時の涼を取る演出が有ったのかなと思われる。

正面の玄関を開け、中に入ると、1階761席のメインホールが開け、目の前には舞台が有る。この舞台は、オペラ等も上演出来るオーケストラボックスを持った本格的な物で、国際都市「別府」にふさわしい公会堂だった。

壁と天井は境がなく二次曲線で造られ、数枚の壁が波状となり舞台より客席に広がって来る感覚の空間で、音響効果は素晴らしいと折り紙付きだ。天井部分を見上げると、6枚の薔薇窓風（※注1）天井飾りが施されており、その中央よりオリジナルなシャンデリアが吊され優雅な雰囲気醸し出している。この天井飾りは送風装置の吹き出し口にも成っていて、屋上の機械室には、巨大な換気装置本体が今でも座っている。

いったん、メインホールを出て、広間の右手を進むと、地下1階と地上2階に通じる階段で、1階と2階との踊り場には月と星をモチーフにしたステンドグラス窓が有り、星のモチーフはステンドグラス窓以外に、天井飾りや照明器具にも使われている。この階段を上り、2階広間に行き、少し直進し、後ろを振り向くと、アーチ状梁が見え、その向こうに先程の上部がアーチ状に成ったステンドグラス窓が見え、差し込むブルーの光で荘厳な気持ちに成る。この建物は外部、内部共に円形やアーチが多用されているが、1階、2階の広間やメインホール両側の廊下の壁や梁型にも、アーチが使われ明確に建物の力の流れ方を構造体に表したデザインだと思われる。右手に、今は会議室等に成っているが、貴賓室・中、小食堂が有り各室の壁、天井仕上げ、照明器具はそれぞれ個性的で貴賓室、中食堂には石造マントルピースを、小食堂の小窓には美しい赤色を使ったステンドグラス窓を設けている。

先程の階段と対をなす反対側の階段で地下に下ると、そこには地階部分約3分の1程の面積を持つ食堂とビリヤード室、男性浴室、女性浴室等があり、食堂内部は連続したアーチ壁梁やモダンなラインを施した柱列でインテリアされ、隣のビリヤード室でゲームを楽しみ、当時は珍しい洋食を堪能できた、別府が誇る社交場で有っただろうと想像できる。

この建物には、当時の国際都市別府の有様を明確に表現し、具体化した多数の技術者及びそれぞれ専門技術を会得した職人の技がたくさん詰め込まれた宝箱である。

(3) 今後の復元と活用について

建物の復元方法は、工法、材料等細かい部分も含め、全て建設当時の姿をそのまま再現するのか、(但し、耐震性向上等の構造改修に伴う形状変更はやむをえない。) 別府市が進むべき方向により残すべき部分は残し、復元する部分は復元・改修をする方法とがあると思う。

まだまだ他に、復元の方法論はたくさん有るかと思うが、別府市民で十分な議論を出し尽くすまで議論する事が大切である。でも時間はあまり沢山は残っていない。

別府市中央公民館は、歴史的、造形的にも素晴らしい建物である。今後の国際都市別府がどのような都市を目指すのか、どのような都市で有るべきか、のビジョンに乗った「復元と活用」を早々に見

付ける必要が有るのではないだろうか。

歴史と伝統のある古きよき建物なので、これからも『来たときよりも美しく』の心で、みんなで大切に活用していきたいものである。

※注1：ヨーロッパの大聖堂などで見られるステンドグラスの円窓の名称。

所 在：別府市上田の湯町6-37

(元、別府市北町上、麻生太吉氏の別荘五六庵跡地2119番地ほか)

設 計 者：逓信省営繕課 技師 吉田鉄郎氏

現場主任 別府市技師 池田三比古氏

総事業費：429,730円90銭

設 計：大正15年（1926年）4月着手

大正15年（1926年）10月完了

建築外観：鉄筋コンクリート造りのスクラッチタイル張り

建築様式：近代ドイツの復興様式

建築工事：昭和2年（1927年）1月14日起工

昭和3年（1928年）3月28日竣工

昭和3年（1928年）3月29日竣工式典挙行

用地取得：昭和7年（1932年）8月 1日（別府市、土地所有権取得の登記を行う）

2. 中央公民館の耐震強度調査

別府市公会堂は大正15年4月設計に着手し、同10月に設計を完了した。

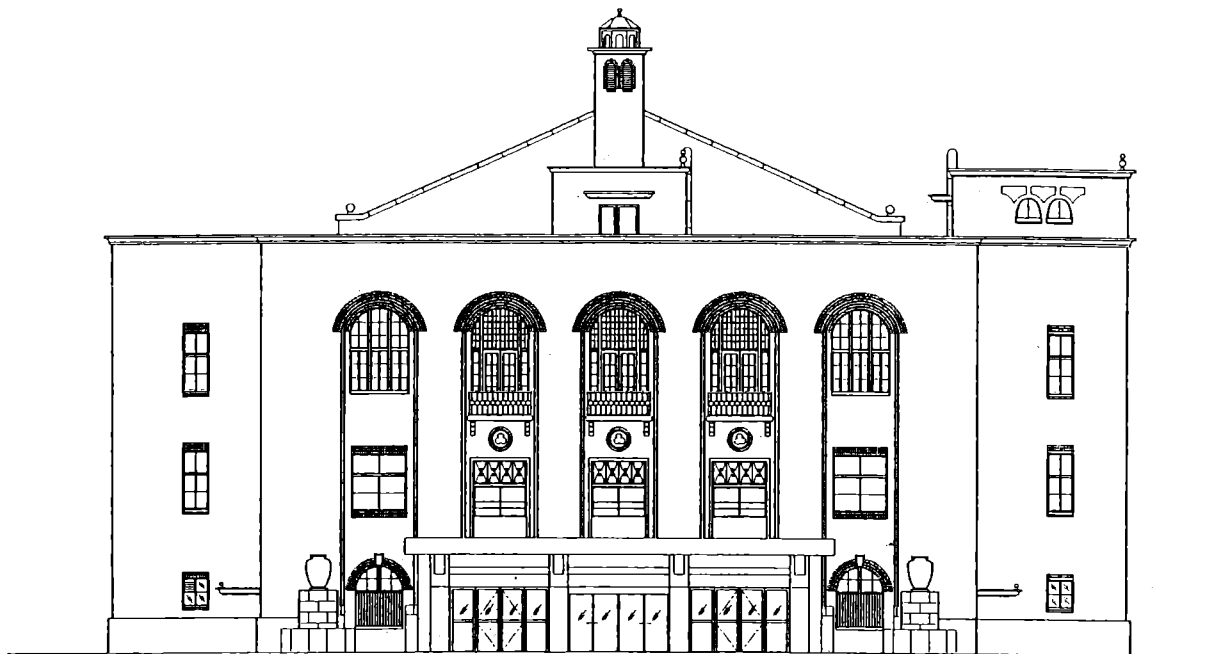
当時、建築物の設計は「市街地建築物法」(大正8年法律37号、施行大正9年12月1日)に基づいて行われた。

戦後の昭和25年5月14日、新たに「建築基準法」(法律201号)が制定され、以来建築構造物は耐震基準によって法規制が実施されて来たが、昭和56年6月建築構造物の耐震基準の見直し改定が行われた。

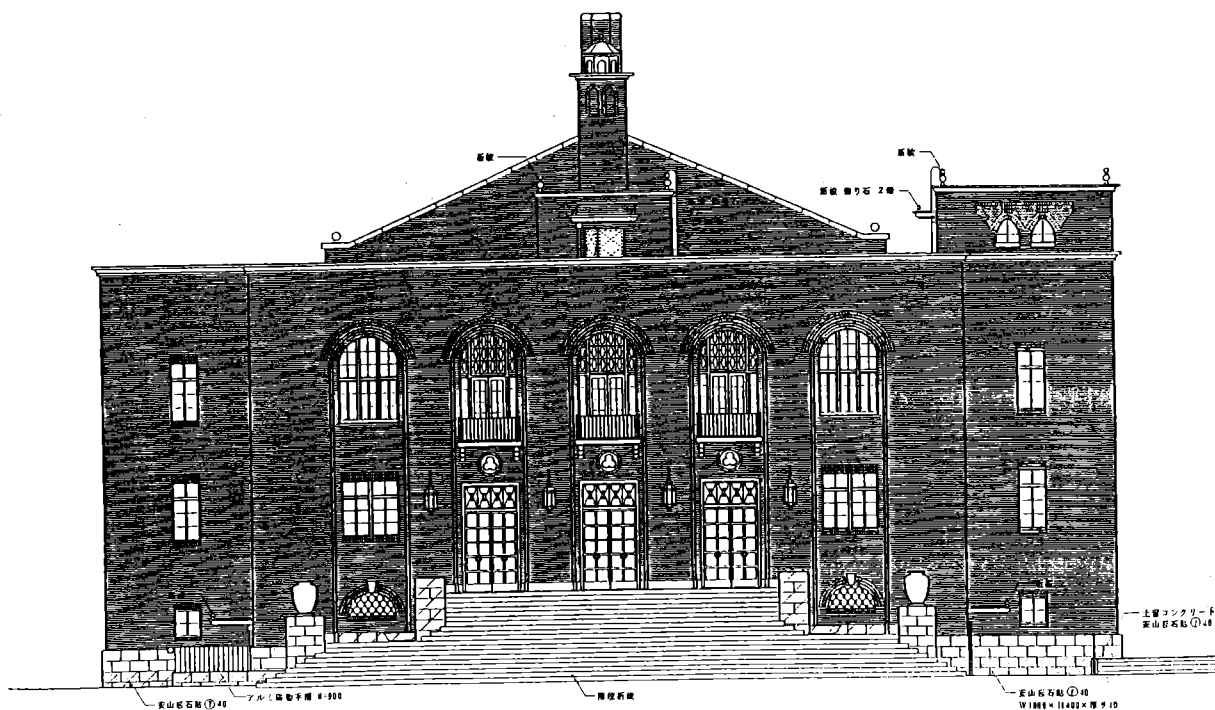
先の平成7年1月17日発生の阪神淡路大震災以後、昭和56年5月以前の旧耐震基準による建築構造物の耐震強度が全国的な社会問題となった。

別府市中央公民館も復元に向けて、早急に建物の耐震強度診断の調査の実施が望まれる。

3. 中央公民館復元イメージ・エレベーション



現在の中央公民館ファザード



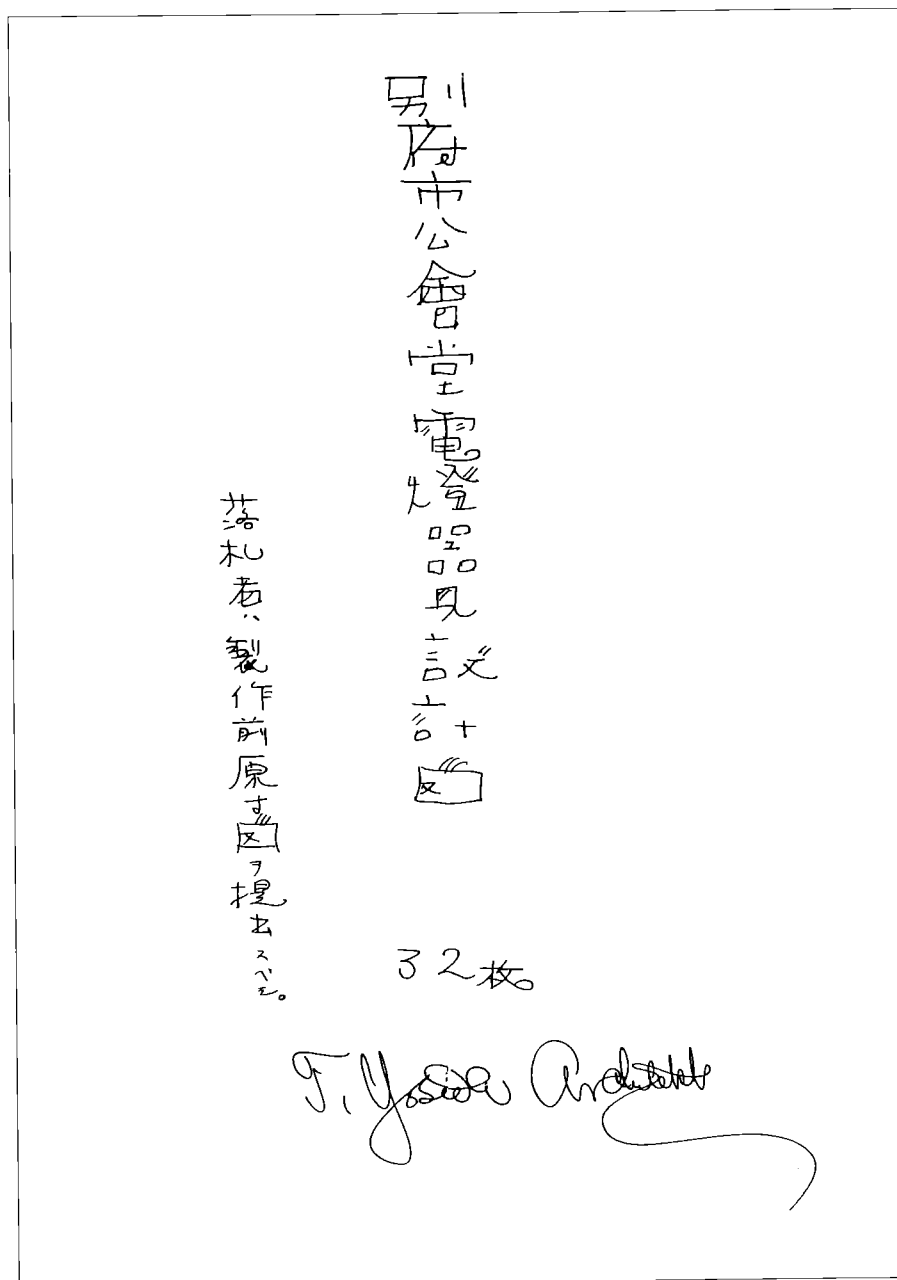
復元イメージ

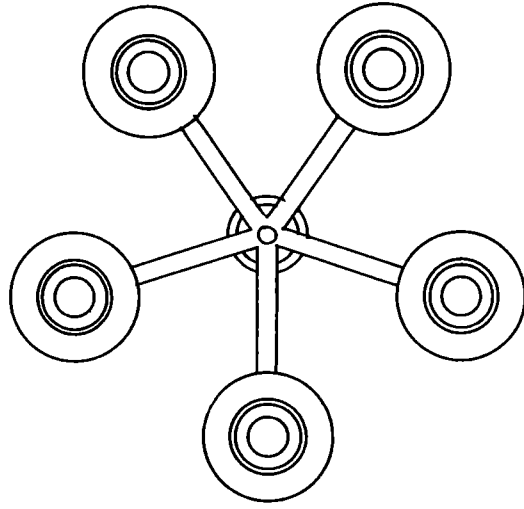
4. 公会堂の電灯設計図

別府市公会堂の設計図書を別府市立図書館で保管している。建物の立面図、主要構造の配筋図面など全51枚(1枚の大きさ横78センチ、縦56センチ)、電灯器具設計図全30枚、さらに工事仕様書全30枚である。

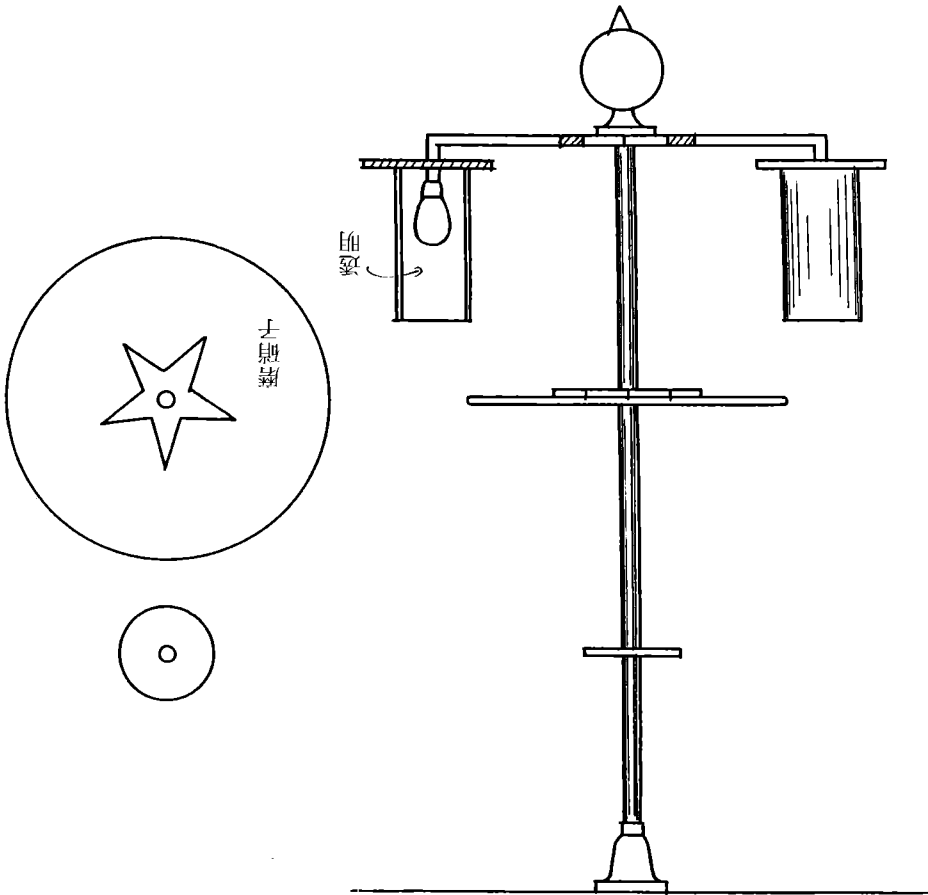
この資料の発見により公会堂建設当初の姿を正確に復元する事が可能となった。

特筆すべきは電灯器具設計図(詳細図)がある事によって、電灯器具の欠損部分もオリジナルなものを製作する事ができる意義は大きい。





1/10



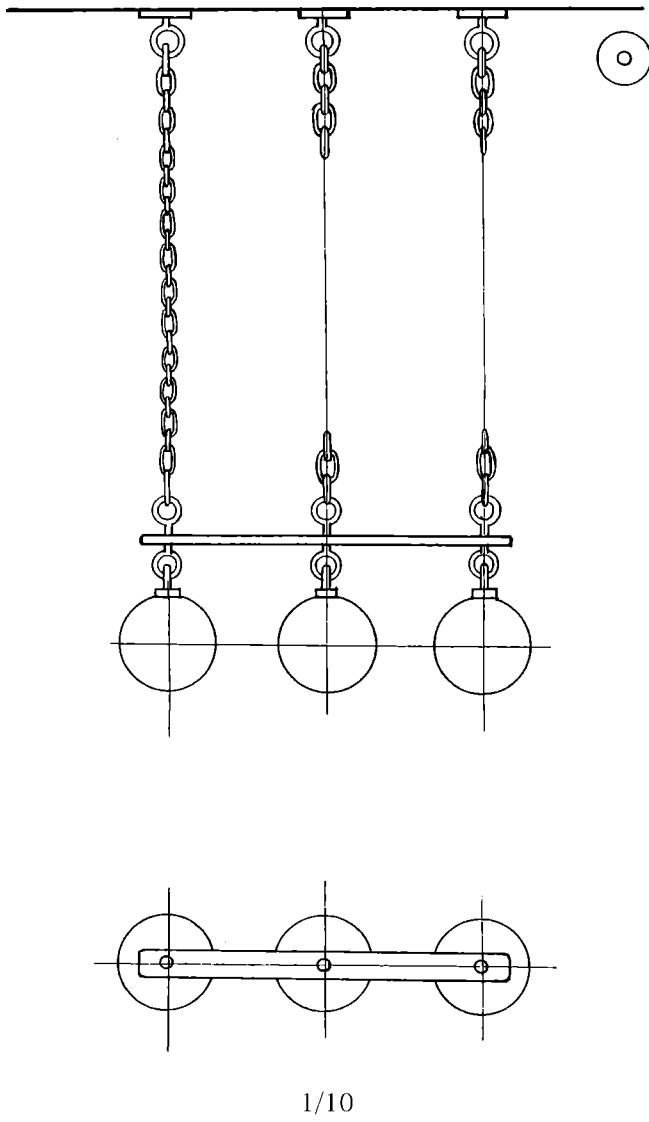
3

一階 玄関

No. 1

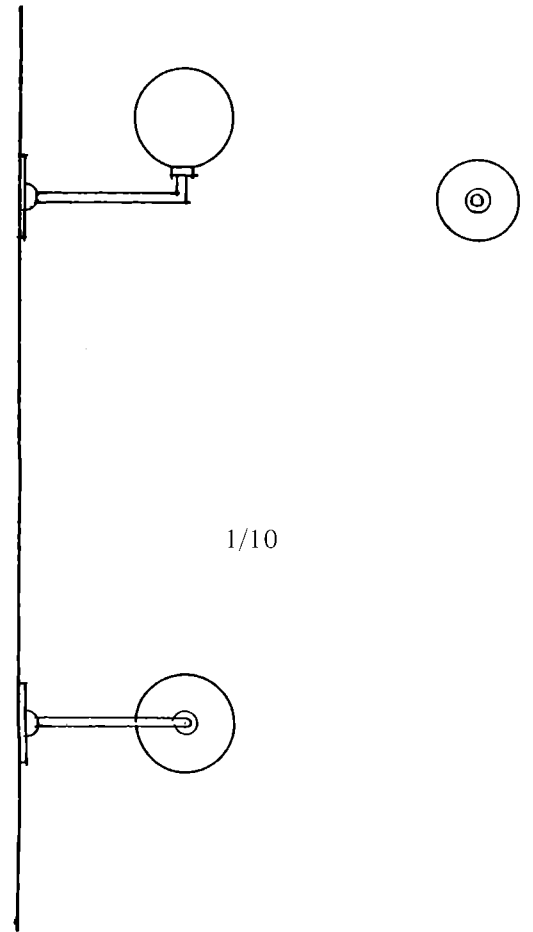
No. 2

一階 廣間 7



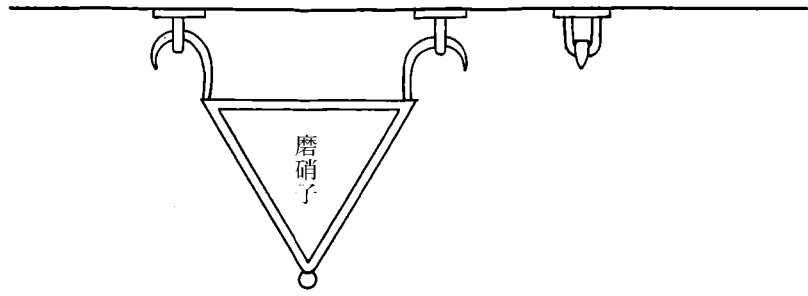
No. 3

一階	左右廊下	8
	裏階段	1
屋階	右測表階段	2
		11

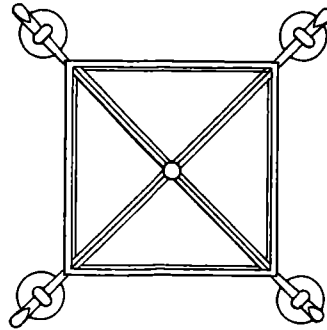


No. 4

一階 左右休憩室 2



1/10



No. 5

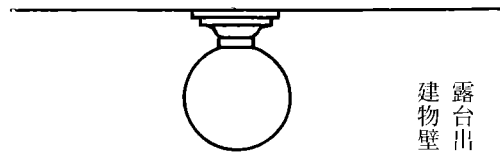
一階 左右階段室 2
左右避難階段底 2

二階 廊 下 2
露台出入口 2
右測表階段室 1

地階 玄関庇 1
厨房入口庇 1
左右空堀 2
廊 下 3
裏階段下便所 1
左表階段下 1
右表階段下通路 1
男女浴室 4
男女脱衣室 2

25

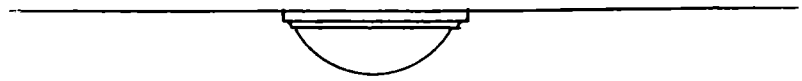
1/10



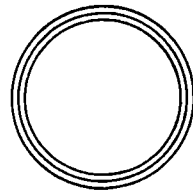
露台出入口、左右空堀等ハ
建物壁体ニ直角ニ取り付ケル事

No. 6

一階 講堂棧敷下 10

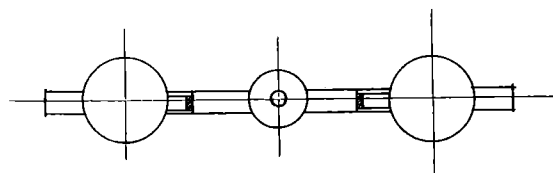
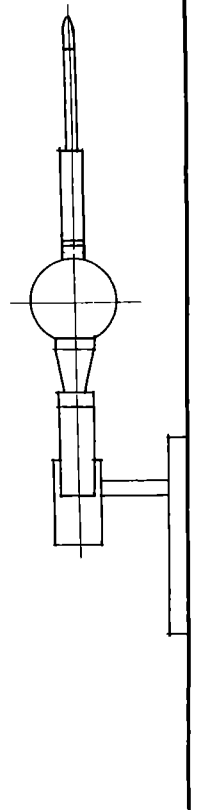
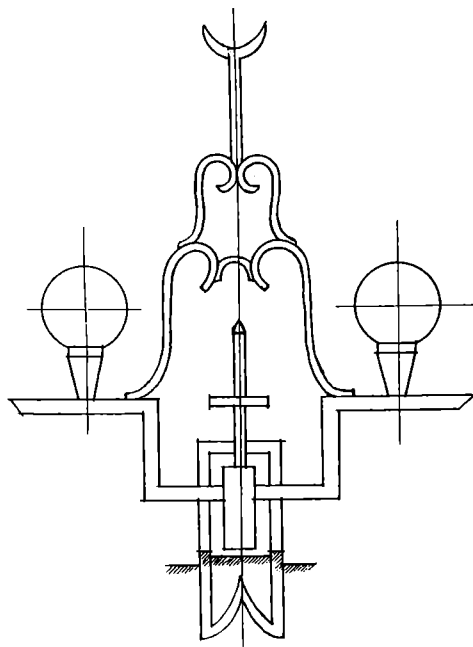


1/10



No. 7

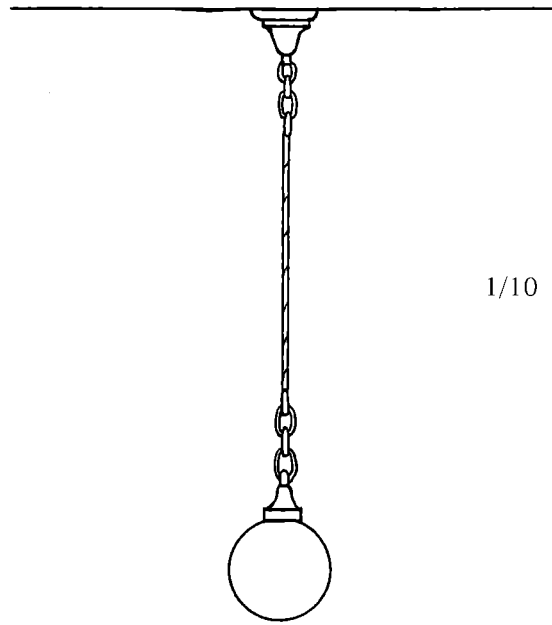
一階 講 堂	6
二階 講 堂	3
	<hr style="width: 50px; margin-left: 0;"/>
	9



1/10

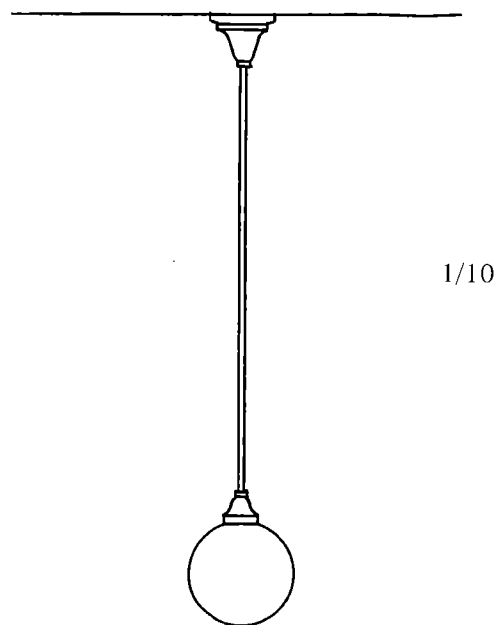
No. 8

一階	携帶品預室	2
	左右控室	5
	裏階段室	1
	右測避難玄関	1
二階	左右控室	5
	配膳室	2
地階	下足室	2
	廣 間	7
	配膳室	1
	裏廊下	2
		<hr/>
		28



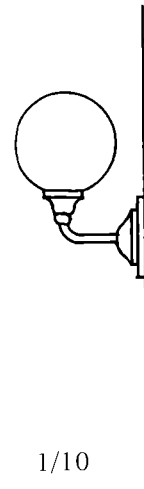
No. 9

一階	左右便所洗面所	4
	控室附属便所	1
二階	便所洗面所	2
地階	便 所	2
		<hr/>
		9



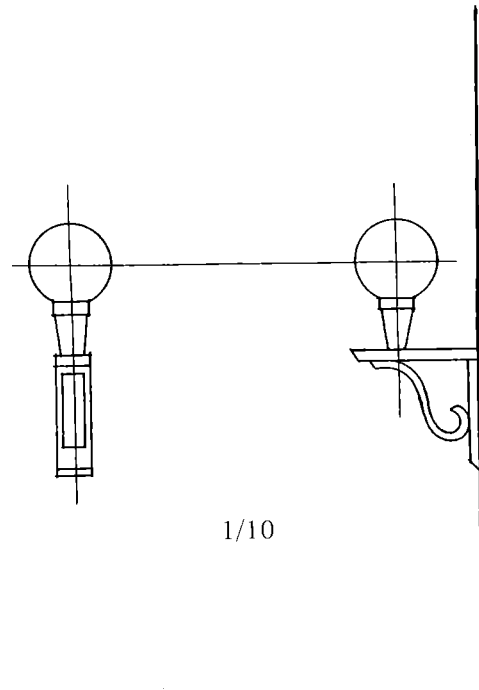
No.12

一階	左右洗面所	4
	三角階段室	1
	舞台裏通路	1
二階	舞台裏通路	1
	洗面所	2
地階	脱衣室	2
		<hr/>
		11



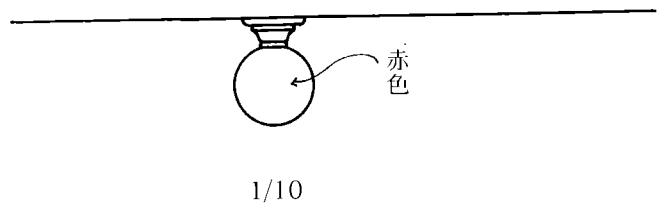
No.13

一階	講堂後部	2
二階	講堂柱型	2
		<hr/>
		4



No.15

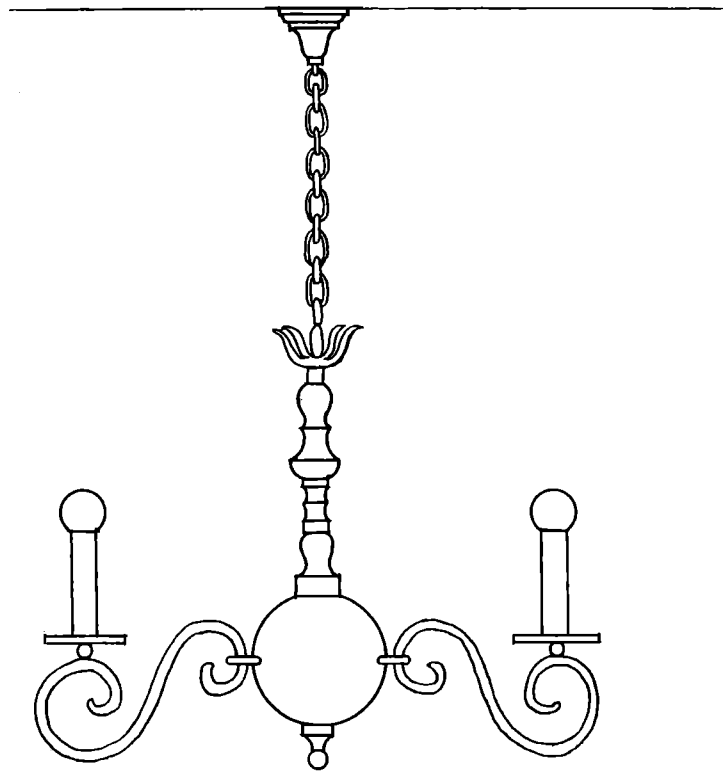
一階	講堂後部	
	出入口 上	1



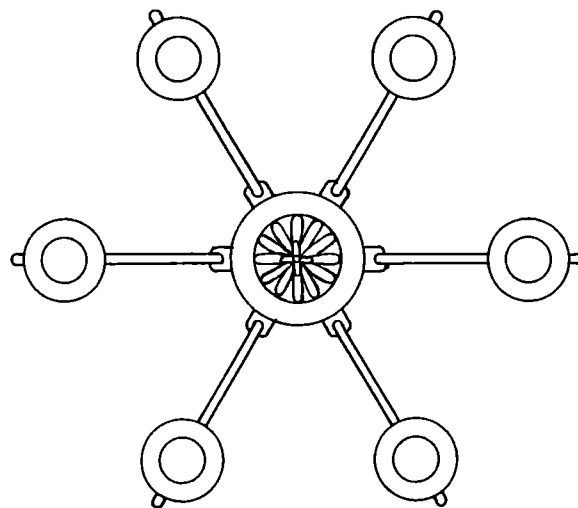
No.16

二階 貴賓室

1



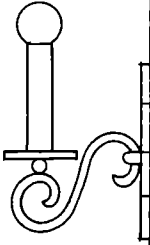
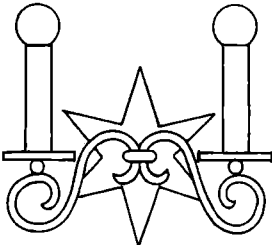
1/10



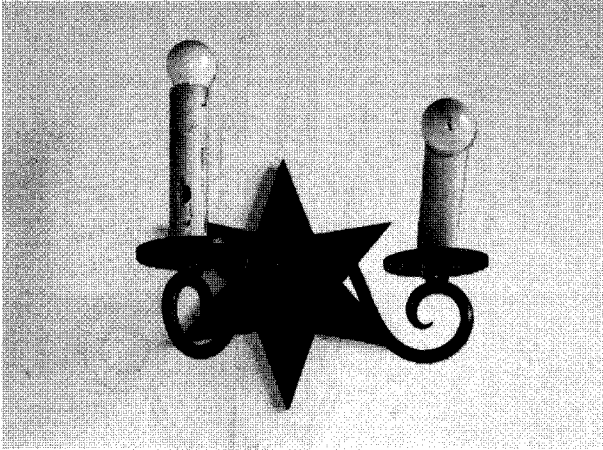
No.17

二階 貴賓室

2



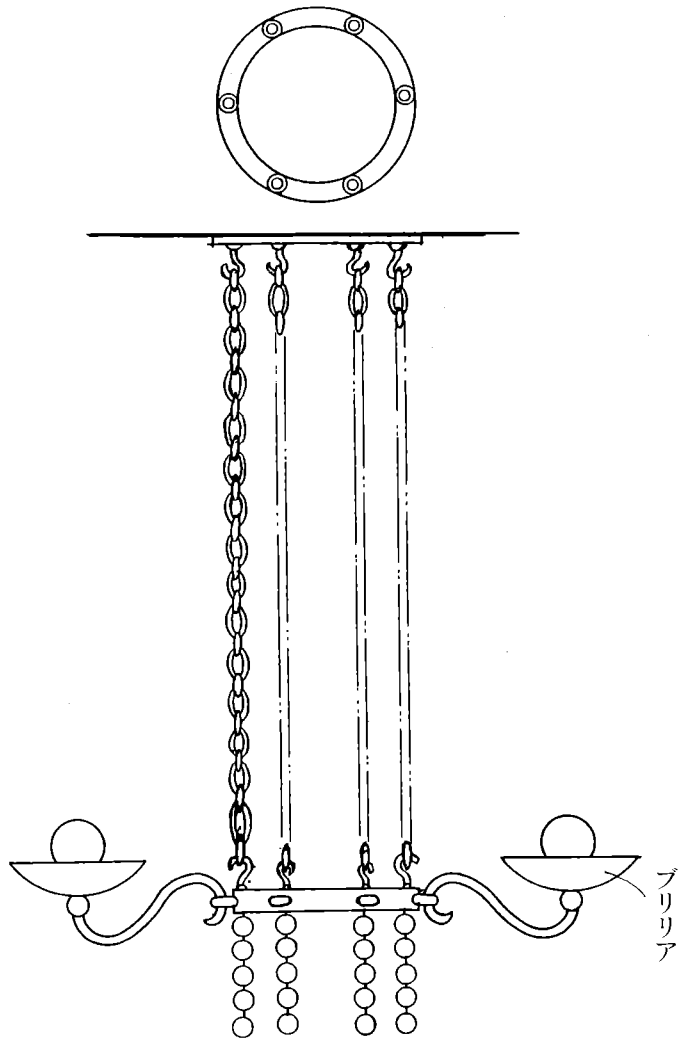
1/10



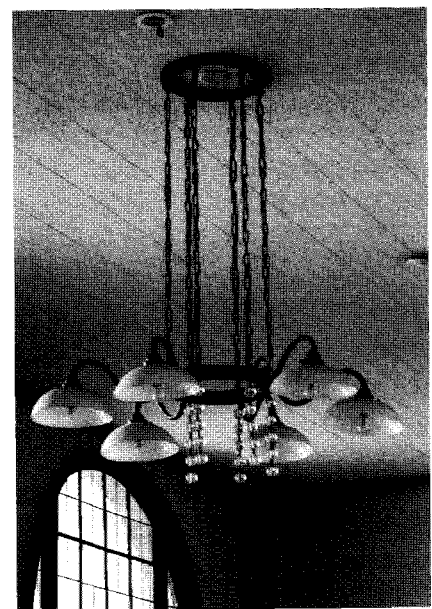
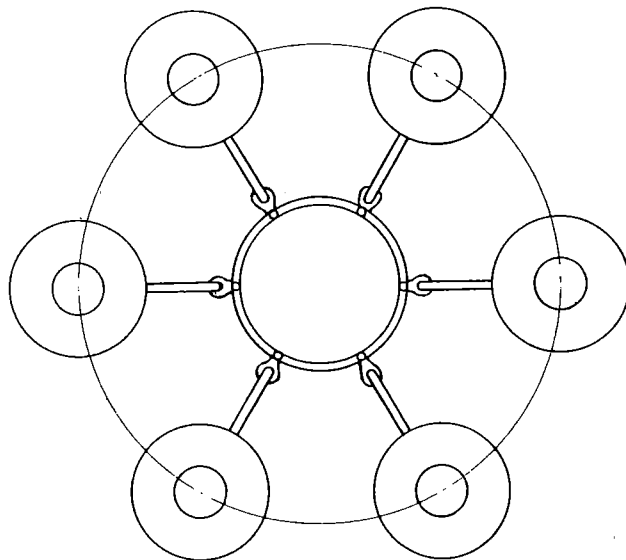
No.18

二階 中食堂

3



1/10

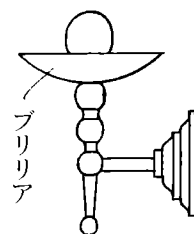
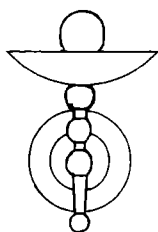


現況：電灯器具を逆に
取付けている

No.19

二階 中食堂

6



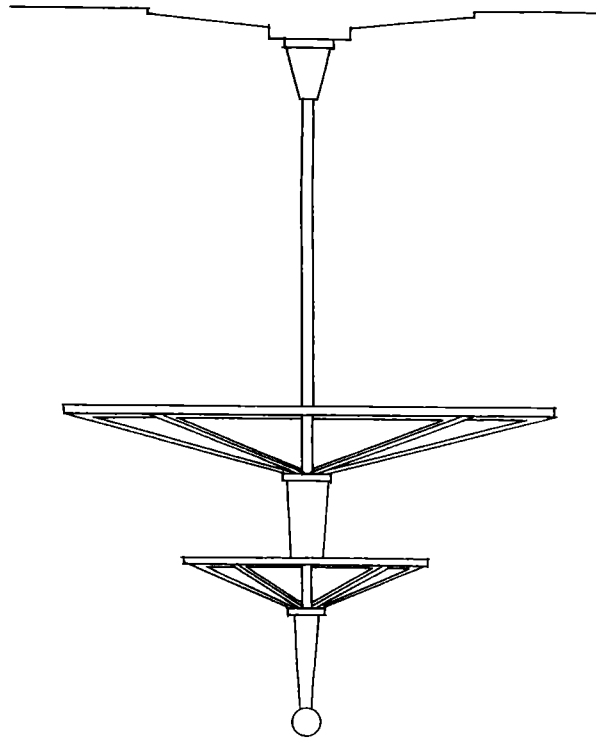
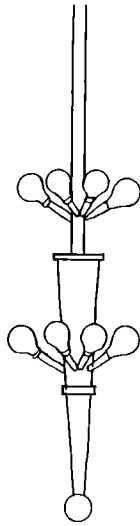
1/10



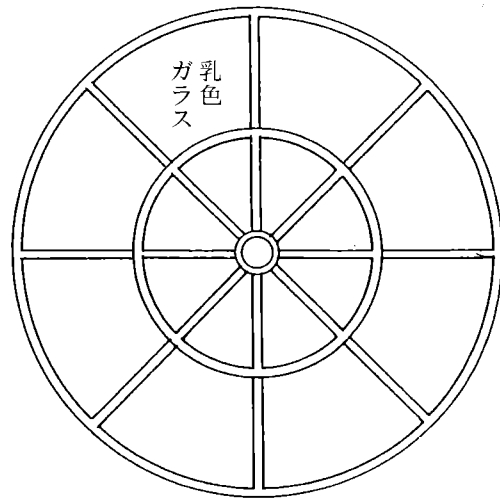
No.20

二階 小食堂

1

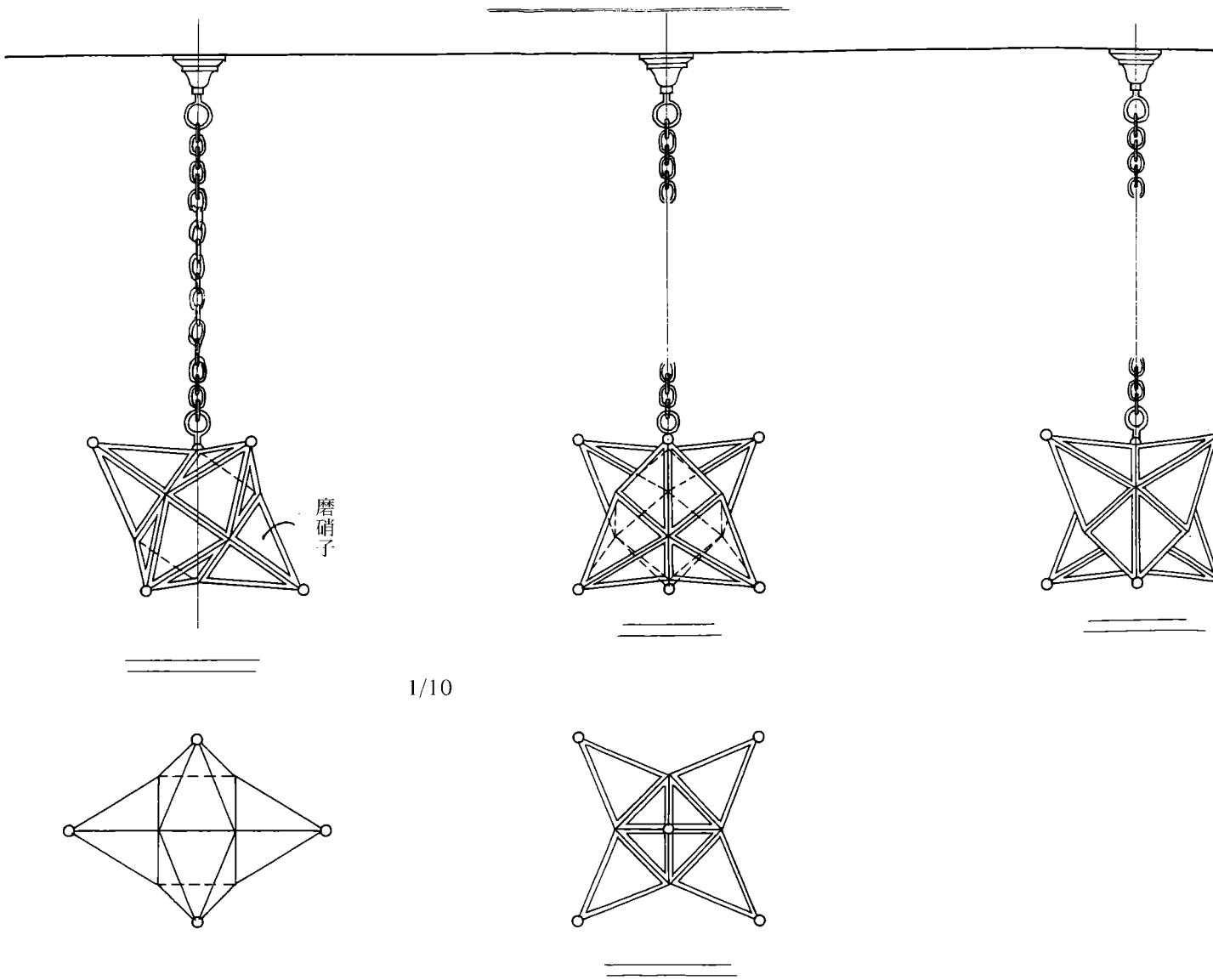


1/10



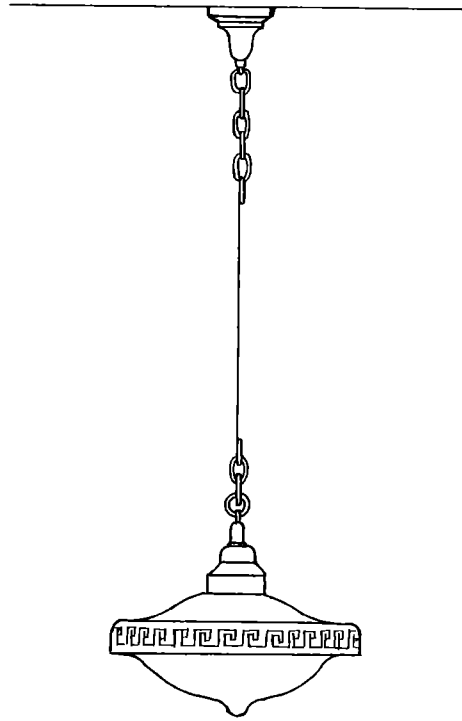
No.21

二階 廣 間	5
左階段室	1
	6



No.22

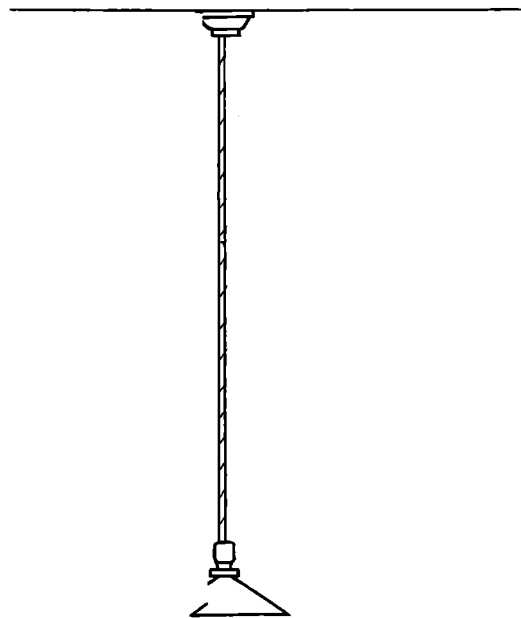
二階 貴賓控室 1



1/10

No.23

二階	映写室	1
屋階	機械室	1
地階	倉庫	2
	厨房	5
	蓄電池室	1
	電気室	5
	小便室	} 5
	料理人室	
		<hr/> 20

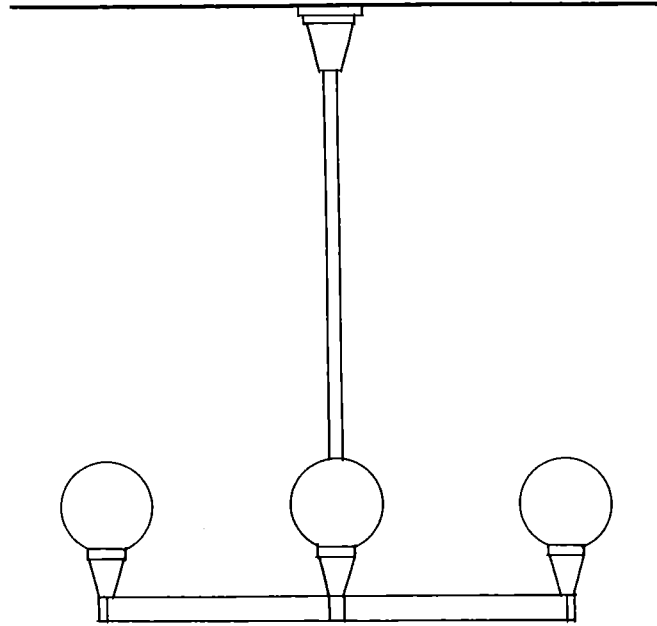


1/10

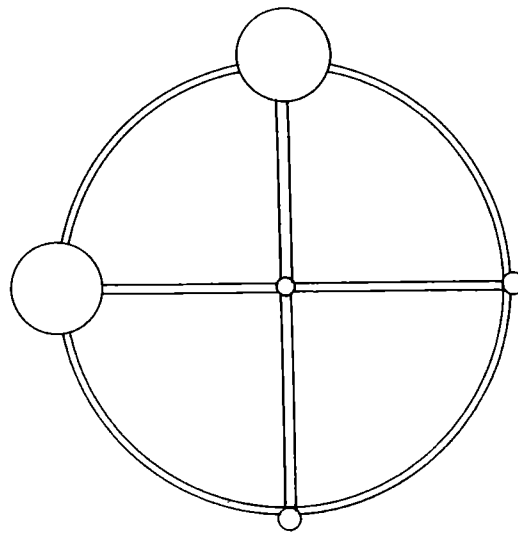
No.24

地階 玄 関

1



1/10



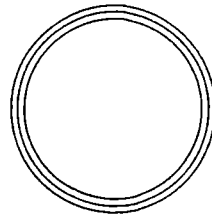
No.25

地階 大食堂

30



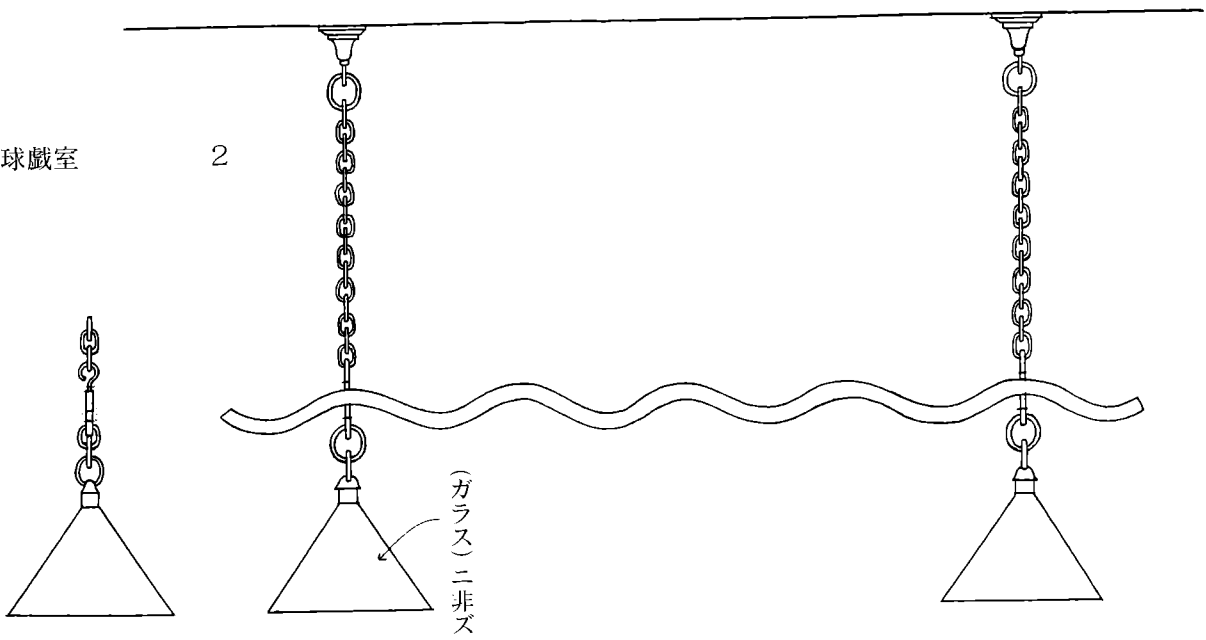
1/10



No.26

地階 球戯室

2



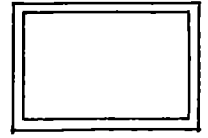
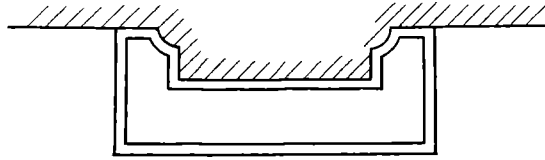
1/10



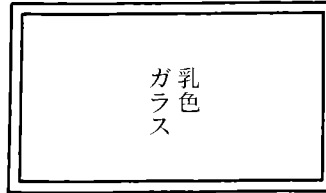
No.27

地階 球戯室

2



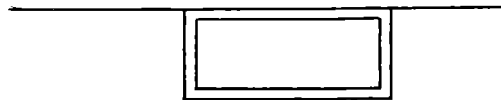
1/10



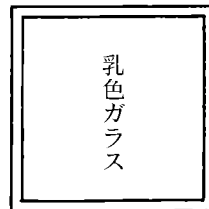
No.28

地階 球戯室

2



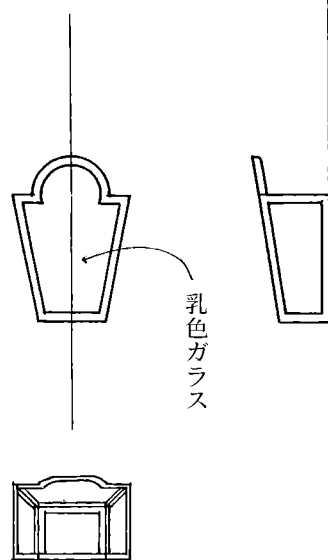
1/10



No.29

地階 球戯室

4

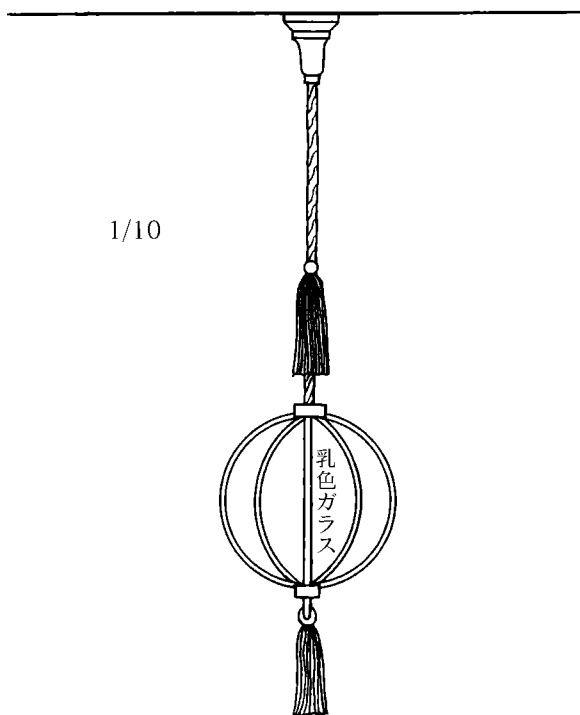


1/10

No.30

地階 囲碁室

2



1/10

No.31

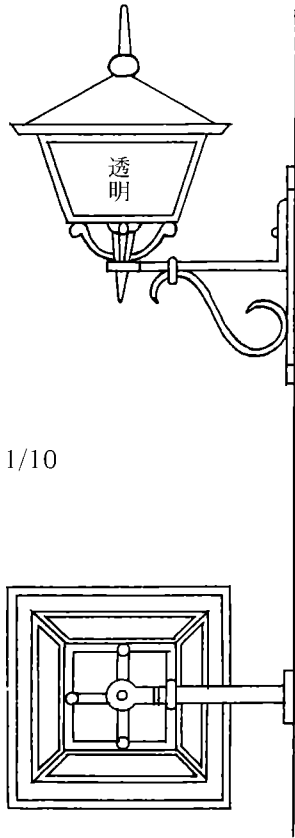
地階 入口脇

1

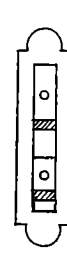
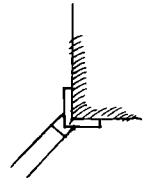
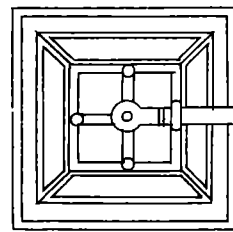
屋上

3

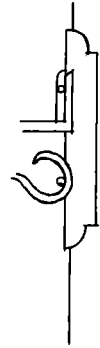
4



1/10



地階玄関入口脇ノモノ

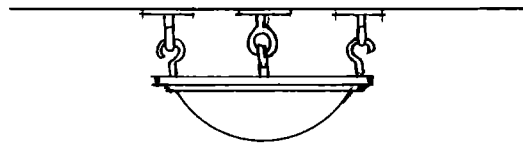


屋上建物ノ出隅ニ取り付ケルモノ。

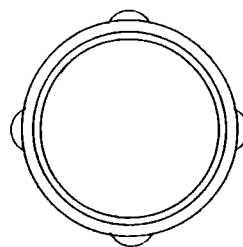
No.32

二階 休憩室

1



1/10



終わりに

別府市中央公民館（旧別府市公会堂）は平成6年11月25日「別府市指定有形文化財」に指定された。これを受けて、当時の中村太郎別府市長は平成7年4月、屋根の全面改修工事を行い、引き続き年次計画で逐次全面的な復元を行う予定であったが、市長交替等諸般の事情から計画は立ち消えとなった。

復元に当たっては、鹿児島県始良郡隼人町JR「嘉例川」という駅がある。この駅舎を完全復元し、今や「時間の止まった駅」として急行列車まで止めるまでになっている。

復元には「こだわり」が必要である。

しかし、今後の建物の用途や近代的な冷暖房設備や電子器機の導入によって、多少の建築空間の変更はやむを得ないとしても、ドア、窓枠、天井、電灯器具に至っては忠実に復元すべきである。特にファザード（建物正面の外観）は完全復元を望むものである。

最後に本稿を作成に当たっては、別府市教育委員会生涯学習課より公会堂の設計図書並びに工事仕様書など多くの資料を準備して戴いた事に対し、改めて感謝を申し上げる次第である。

復元に向けて参考文献

- べっぶの文化財 No.25 (別府市の近代文化遺産)
平成6年3月
- べっぶの文化財 No.27
(別府市中央公民館・造形的視点と考察)
平成8年3月
- 『地霊』ゲニウス・ロキ
(発行：中村光 別府 光産業経営研究会)
平成5年12月1日
- 別府市公会堂設計図 (別府市立図書館所蔵)
大正15年10月
- 別府市公会堂電灯器具図 (別府市立図書館所蔵)
大正15年10月
- 別府市公会堂工事仕様書 (別府市立図書館所蔵)
大正15年10月
- その他関係図書

執筆者

別府市文化財調査員 (地域近代史部門) 外山 健一
別府市文化財調査員 (産業デザイン部門) 恒松 年廣
別府市文化財調査員 (近代建築部門) 三ヶ尻 勝

べっぶの文化財 No.38

発行・編集 平成19年3月31日
別府市教育委員会生涯学習課

編 集 別府市文化財調査員

印 刷 株式会社プリメディア